



日本初!

ジアス

GIAHS

Globally Important Agricultural Heritage Systems

(世界農業遺産)

認定

佐渡の環境保全型農業が

GIAHS (世界農業遺産) に認定されました

GIAHS (世界農業遺産) ※以下、ジアスとは

ジアスとは「世界農業遺産」とも呼ばれ、国連食糧農業機関（FAO・本部ローマ）が「世界的に衰退しつつある伝統的農業や自然的景観などを後世に受け継いでいく」ことを進めるため、2002年に創設しました。今までにペルーの「古代バレイシヨ農法」、チリの「チロ工農業」、中国の「水田養魚」など8件が登録されています。

「朱鷺と暮らす郷米」として市が認証する制度を開始したことで、トキの餌となるドジョウやカエルなどが生息する田んぼが増え、「生きものを育む農法」が確実に広がっています。また、生きものに視点をあてた地域づくりに取り組んでいます。「生きもの調査の日宣言」を行い、

年2回地域全体で生きもの調査を実施。トキの再生が小さな生きもの命に目を向けることにつながり、農家だけでなく、子どもたちや都市住民の参画も広がり、環境教育・交流が進められています。

「朱鷺と暮らす郷米」は、販売金額の一部がトキ環境整備基金となり、消費者による環境保全への参画も図れます。「食べる消費者が支える生物多様性保全型農業」として、経済から生物多様性がいつそう進む仕組みを目指しています。

農業が持つ生物多様性保全の役割を日本全国に発信し、日本の新しい農業として認められるよう、全島をあげて取り組みを進めているところです。

ジアス認定に向けた取組

- 平成22年9月、国際連合大学から推薦の意向
- 申請書を作成し、同年の12月に事務局（FAO）へ申請。
- 国際生物多様性年クロージングイベントで認定申請したことを発表。
- ジアス申請記念フォーラム（平成23年1月）、意見交換会（平成23年5月）を開催。
- 6月9日〜12日、中国・北京で「ジアス国際フォーラム」が開催。10日に高野市長が佐渡の環境保全型農業について提案発表。
- 6月11日、国連食糧農業機関（FAO）評価チームによる最終審査の結果